

東海七福神めぐり

毎年、元旦から1月15日まで

旧東海道の七福神めぐりは昭和7年に始まりました。

七福神の信仰は室町時代に始まり、福神を祀る寺社を巡拝する「七福神めぐり」の風習は江戸時代になって生まれ、七難即滅七福即生(七つの難が去り、七つの福が生まれる)というお経の言葉に由来すると言われている。数字が特徴的ですが、当時禅僧の間で好まれた「竹林の七賢(3世紀の中国における3人の知識人)」になぞらえて、流行りの神様が選ばれたとする説もあり、ラッキーマン(七福神)のイメージは深く、おめでたい感覚は不思議と共通しています。利益も起る福神はご利益紹介しませんが、プロフィールは諸説あります。ご興味のある方はぜひお調べください！



北品川から大森までの約4.5kmの道、初詣とまち歩きを兼ねて楽しめます。

- | | | | |
|---|---------|-----|-------|
| 一 | 品川神社 | 6分 | 新馬場駅 |
| 二 | 養願寺 | 3分 | |
| 三 | 一心寺 | 5分 | 青物横丁駅 |
| 四 | 荏原神社 | 15分 | 立会川駅 |
| 五 | 品川寺 | 20分 | |
| 六 | 天祖・諏訪神社 | 20分 | 大森海岸駅 |
| 七 | 磐井神社 | | |

一勇齋國芳「七福神図」(国際日本文化研究センター所蔵)

大黒天 (だいこくてん) ●五穀豊穡 ●財福

インドのシヴァ神(破壊の神)の化身の一つの大黒天が、日本でやさしい神様として知られる大国主命と「だいこく」という音で通じて混ざり、現在の姿になったそうです。頭巾は「上を見るな」という謙虚さを、二つの米俵は「二俵で満足せよ」という欲張らないことを表しています。打ち出の小槌はツチ=土に通じ、穀物を生み出す大地を表すとされています。

布袋尊 (ほていそん) ●福德円満

中国唐代末期に活躍した禅僧で、七福神の中で唯一実在した人物です。いつも微笑みを浮かべていて、半裸で大きな太鼓腹が目立ちます。大きな布の袋を持っているのも特徴的です。この袋には、身の回りの持ち物や施された食べ物がしまわれていました。放浪生活を送る楽天的な生きざまが伝えられています。人の吉兆や天気を必ずあてるという能力を持っていたそうです。

寿老人 (じゅろうじん) ●不老長寿

昔の中国では、寿老人は南極星の化身とされていました。南極星はめったに見ることができないため、世の中が平和なときにだけ現れるめでたい星だと信じられていました。鹿を従えているのは、鹿=ロク=禄(財福)を表していて、福禄を授ける神様とされています。不老長寿のシンボルである桃を持つ姿で描かれることもあります。

恵比須 (えびす) ●大漁 ●商売繁盛

七福神の中で唯一の日本の神様です。様々な神様の要素を持つとされていますが、イザナギ・イザナミの子とする説では、生後事情があって海に流され、流れ着いた土地で福を運ぶ来訪神として大切にされたといわれています。釣り竿や鯛を抱えた姿は、論語の「釣りして網せず(網で魚を取らない=欲張らない)」という暴利をむさばらない清い心を表していて、商売繁盛の神様として有名です。

毘沙門天 (びしゃもんてん) ●財運 ●戦勝 ●勝負運

もとはインドの財宝福德を司る神様で、多聞天とも呼ばれます。仏教において東西南北を守る四天王の一人で、北を守る善神とされています。いかめしい甲冑姿が特徴的です。その姿から戦いの神様としての存在感が大きく、日本に伝わりました。右手に持つ鉾や槍のような武器は敵を打ち砕き、左手の宝塔(仏塔)は人々に福德を与えるとされています。

福祿寿 (ふくろくじゅ) ●子孫繁栄 ●財運 ●長寿

昔の中国では、時代が進むと寿老人は長い頭と豊かな白髭の姿でも描かれるようになり、それが福祿寿の姿です。福祿寿と寿老人は同一人物とされますが、日本では別人として七福神に加えられました。手にしている巻物には、人の寿命が記されています。「福」は子宝、「禄」はお金、「寿」は長寿という三つの徳を備える人徳の神様の代表とされ、鶴や亀を従えています。

弁財天 (べんざいてん) ●財福 ●学才 ●諸芸上達

もとはインドの水の神様で、弁才天とも呼ばれます。水の流れる音から音楽や話術の神様として信仰されていました。その後、学芸全般にわたる神様とされました。インドの別の神様と混同されたことや才=サイ=財と通じるため財富の神の一面もあり、現在では有名となっています。日本古来の神様である市杵島姫命と同一視され、琵琶を持つ美女の姿で描かれるようになったそうです。

最初は品川神社。空に近づいたように感じる境内は、清々しさがあります。下りの階段に気を付けて、正面の北番場参道通りに向かいます。

▲北番場参道通り 鳥居のような入口

住宅街の中、ひっそりと佇む養願寺。ほっと一息つき、振り返れば路地の先に一心寺が見えます。

▲養願寺

▲煉瓦堀 口ケ地にもなった

品川橋が見えるとそのまま渡りそうになってしまいますが、右折して荏原神社に向かいます。

▲品川宿交流館 道中にあります

一心寺に着いたということは、旧東海道を足踏み入れたということ。石畳みの商店街を歩いていきます。

▲一心寺

荏原神社の目の前には鎮守橋、少し先には荏原橋、そして先ほど通り損ねた品川橋、好きな橋で目黒川を越えて旧東海道に戻ります。

▲荏原神社

さわやかな川辺を歩いていくと、木漏れ日の心地よい境内で恵比寿に迎えられます。

▲恵比寿像 につこり

途中、街道松の広場やユニークな門構えの城南小学校があります。

▲品川寺

緑が深まったと感じたら、そこは品川寺。大きな地藏菩薩が見守っています。境内にはカフエもいあります。

▲城南小学校 現代の寺子屋

そして大井地区へ……